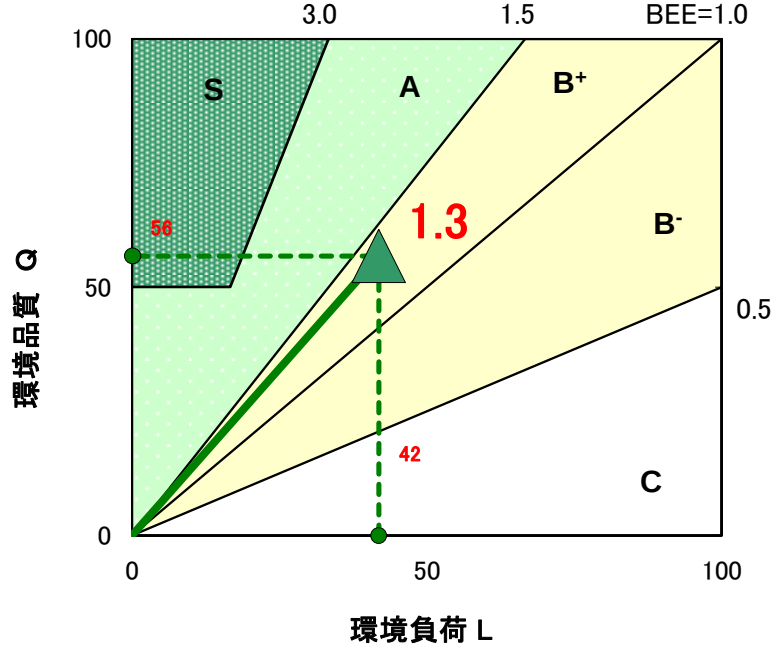


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)サンメゾン新町1丁目プロジェクト	階数	地上13F	 してください。
建設地	熊本県熊本市	構造	RC造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	232 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年7月10日	
敷地面積	1,098 m ²	作成者	渡邊 浩之	
建築面積	536 m ²	確認日	2014年7月10日	
延床面積	5,563 m ²	確認者	中尾 俊平	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

68%

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価


78

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	88.8
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	58.7
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	69.5

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

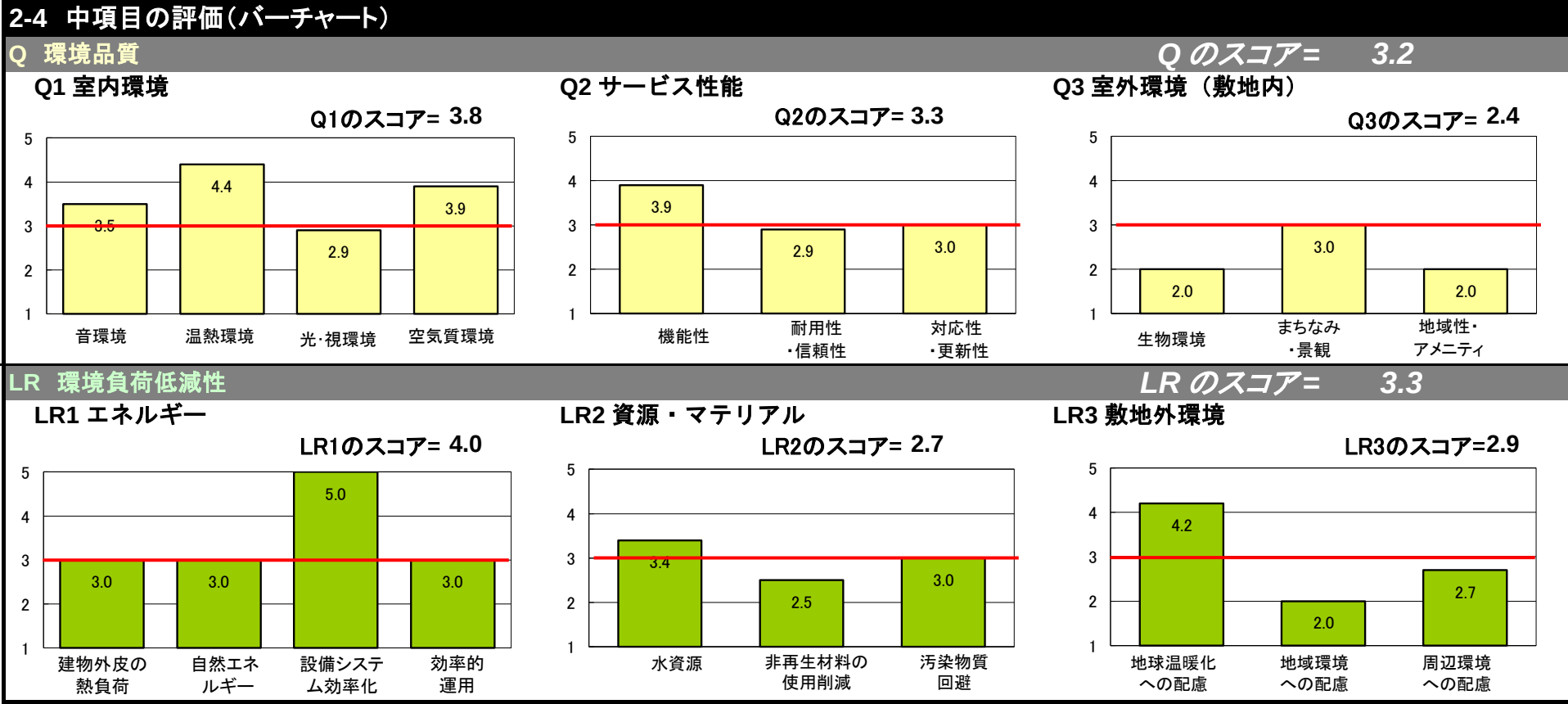
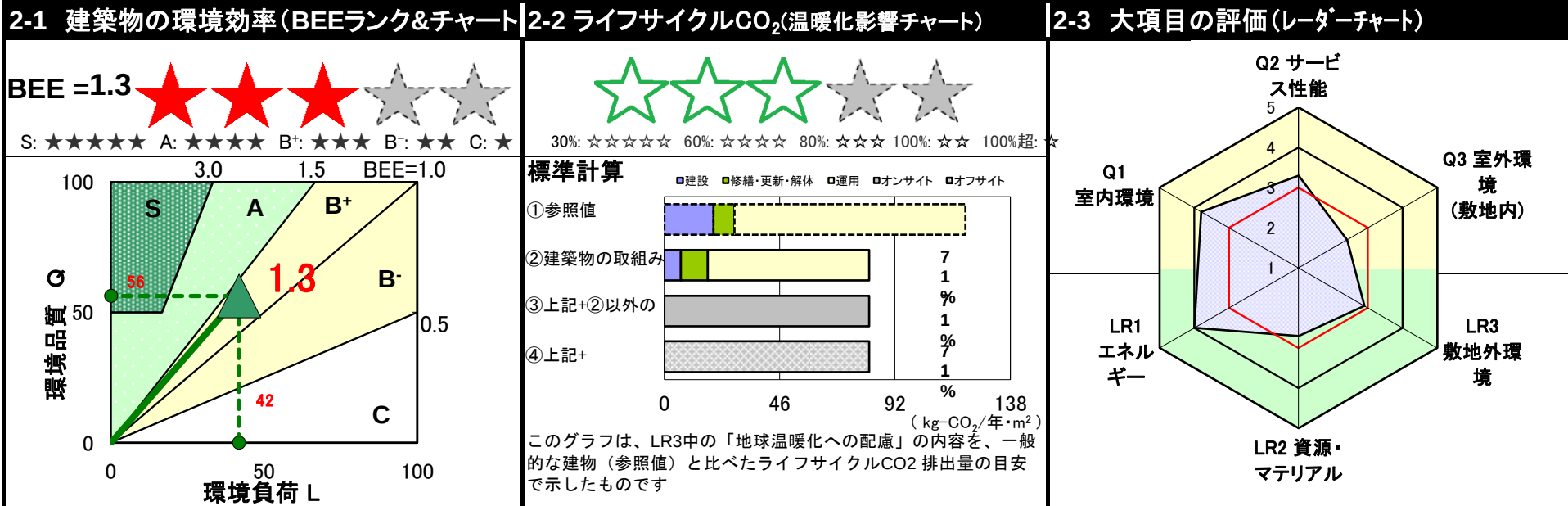
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)サンメゾン新町1丁目プロジェクト	階数	 してください。	
建設地	熊本県熊本市	構造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員		
気候区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日		
敷地面積	1,098 m ²	作成者		
建築面積	536 m ²	確認日	2014年7月10日	
延床面積	5,563 m ²	確認者	中尾 俊平	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称)サンメゾン新町1丁目プロジェクト			■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)			
スコアシート 実施設計段階			欄に数値またはコメントを記入			
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			0.40		-	3.8
1 音環境		4.0	0.15	3.4	1.00	3.5
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		5.0	0.50	3.8	0.50	
1 開口部遮音性能	T-2サッシを使用	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	Lr-50	3.0	-	4.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境		2.6	0.35	5.0	1.00	4.4
2.1 室温制御		3.0	0.50	5.0	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	断熱等性能等級4	3.0	0.38	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.7	0.25	2.9	1.00	2.9
3.1 昼光利用		4.2	0.30	2.9	0.50	
1 昼光率	共用部昼光率:2.60%、住居部昼光率:1.69%	5.0	0.60	4.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.8	0.25	4.0	1.00	3.9
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	全面的にF☆☆☆☆を使用	5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.1	0.40	4.2	1.00	3.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	Gbitクラスのプロードバンドが利用可能	3.0	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	評価する取り組みが8ポイント	4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	評価方法基準で等級3	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		2.2	0.20	-	-			
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-			
	3	電気設備		2.0	0.20	-	-			
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-			
	5	通信・情報設備		1.0	0.20	-	-			
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-			
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.1	1.00	3.0		
3.1 空間のゆとり			階高＝2.96m	-	-	3.2	0.50			
	1	階高のゆとり		3.0	-	4.0	0.60			
	2	空間の形状・自由さ		3.0	-	2.0	0.40			
				3.0	-	3.0	0.50			
	3.2 荷重のゆとり			3.0	1.00	-	-			
	3.3 設備の更新性			3.0	0.20	-	-			
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			
	2	給排水管の更新性		3.0	0.10	-	-			
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-			
	4	通信配線の更新性		3.0	0.20	-	-			
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-		2.4	
	1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-		2.0	
	2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-		3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0			
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-				
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-				
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3			
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0			
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0			
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0			
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.79	5.0	0.50	-	-	5.0		
集合住宅以外の評価(3a.3b)			1.0	-	-	-				
集合住宅の評価(3c)			5.0	1.00	-	-				
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0			
集合住宅以外の評価			-	-	-	-				
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-				
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-				
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-				
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-				
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-				
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7			
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4			
1.1 節水			4.0	0.40	-	-				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-				
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-				
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-				
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5			
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-				
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-				
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0			
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-				
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-				
1 消火剤			-	-	-	-				
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-				
3 冷媒			3.0	0.50	-	-				
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-		2.9		
1 地球温暖化への配慮			4.2	0.33	-	-	4.2			
2 地域環境への配慮			2.0	0.33	-	-	2.0			
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-				
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50	-	-				
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-				
1 雨水排水負荷低減			-	-	-	-				
2 污水处理負荷抑制			3.0	0.33	-	-				
3 交通負荷抑制			3.0	0.33	-	-				
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-				
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-		2.7		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-				
1 騒音			3.0	1.00	-	-				
2 振動			-	-	-	-				
3 悪臭			-	-	-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-				
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-				
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-				
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-				
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			5.0	0.70	-	-				
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-				

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

地域の特性や景観に配慮した建物を目指し、さらに省エネルギー化を図ることで、地球環境保全に貢献しています。

Q1 室内環境

高い断熱性の確保や日射に配慮し、快適な居住空間を実現しました。

Q2 サービス性能

段差や廊下幅などバリアフリーに配慮し、高齢者や障害者の方にも安心して安全な建物を目指しました。

Q3 室外環境（敷地内）

道路に面して植栽帯を設け、緑豊かな周辺環境に配慮しました。

LR1 エネルギー

環境保全に配慮し、省エネルギー設備を採用しました。

LR2 資源・マテリアル

節水型トイレ、水優先吐水の水洗等を採用し、水資源の保護に努めました。

LR3 敷地外環境

街並みに沿うよう、眩しさを抑え、落ち着いた照明計画としました。また、センサーによる管理を採用しました。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)サンメゾン新町1丁目プロジェクト

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		78
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				88.8	0.40	35.52
Q1-2.1.2	外皮性能	4.5	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.5	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				69.5	0.20	13.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数